

おおはら かんざん
大原 観山 (1818~1875)



明教館教授。松山藩士。儒学者。松山城下(現、松山市)出身。松山藩士・加藤重孝の次男。本名は有恒。重孝の長女の嫁ぎ先の大原家を嗣ぐ。観山の長女・八重が正岡常尚に嫁ぎ、常規(子規)と妹の律が生まれる。観山は、正岡子規の外祖父である。

観山は、藩校・明教館で日下伯巖などに学び、ついで江戸(現、東京都)の昌平黌に学び、帰藩して明教館教授となって幕末期の藩の子弟教育に尽くした。高邁な識見をもち、藩主・松平定昭に仕えた。幕末には、松山藩の恭順について功があり、また、久松家の血統の絶えるのを嘆き、後嗣について大いに尽くすところがあった。明治3(1870)年1月、職を退き、三番町に私塾を開いた。

観山は、孫の子規に7歳の時から三並良(母の従弟)とともに、早朝5時頃から私塾で講義をし、大変期待した。

また、観山は、大変西洋嫌いで自らも一生断髪せずに髷で通したが、子規と良に対しても、小学校に入ってから髷を結わせていた。しかし同級生から「まげ升さん」と呼ばれたりしていたので、良の父が観山にお願いし、観山は不本意ながら二人の断髪を許した。しかし、子規は観山を非常に尊敬し、「筆まかせ」の中で「后来、学者となりて、翁の右に出でんと思へり」と記している。

詩文集に観山の三男である加藤拓川編集の『蕉鹿窩遺稿』がある。

略歴

文政元(1818)年	松山藩士・加藤重孝の次男として生まれる。
天保9(1838)年	江戸の昌平黌に入る。
安政5(1858)年	養父が逝去し家を相続する。 松山藩校・明教館教授となる。
明治3(1870)年	維新後は漢学所司教、学校大司教を歴任するがこの年1月に辞職 松山の三番町に私塾を開く。
明治8(1875)年4月11日	58歳で永眠。墓所は松山市御幸の来迎寺。

(肖像画：個人蔵)

(肖像画の写真提供：松山市立子規記念博物館)

〈関連図書〉

- ・大原有恒『蕉鹿窩遺稿』加藤恒忠 1923年
- ・愛媛県百科大事典編集委員会『愛媛県百科大事典』愛媛新聞社 1985年
- ・愛媛県史編さん委員会『愛媛県史 人物』愛媛県 1989年
- ・『松山ゆかりの人々』松山市立子規記念博物館 2013年

〈主な収蔵資料〉…(P197, 18)

〈ゆかりのある場所〉…(P271, 32)

〈関連施設〉…明教館

〒790-0855 愛媛県松山市持田町2丁目 愛媛県立松山東高等学校内 TEL: 089-943-0187
松山市立子規記念博物館

〒790-0857 愛媛県松山市道後公園1-30 TEL: 089-931-5566